

伝心伝承

当コーナーでは会長、県会長経験者の方々に「中央海」という大海原での羅針盤たる助言・苦言をいただきます。5回目は第23期会長小原得雄OBです。



一司法書士を志した経緯と(業務上あるいは資格取得の)苦労話をお聞かせください。

大学は法学部だったわけですが、周囲の就職が決まってくる中で、自分自身のこれからの目標が定まらないままでした。「これからは資格の時代だ」という漠然とした認識はあったものの地元企業に就職し、企業の一員として毎日が過ぎていく過程で、「これでいいのかな?」と常に満足できない部分があったわけです。大学でせっかく法律を勉強したのだから、専門性を活かせる資格(一町の法律家=司法書士)をと考え、27歳で会社を辞めました。某司法書士事務所実務を経験しながら29歳のときに試験に合格しました。それまでは挫折の連続で、何かに夢中になって達成感を得た経験がなかったのですが、常に達成感というものを求めています。私の場合はその対象が司法書士だったわけです。

開業しても新米にはなかなか仕事の依頼がなく、30歳で中央会に入会したときは(年下の会員も含めて)周囲のすべてが大人に見えて、自分より一歩も二歩も先に行っているように感じていました。資格は持っているながらも「自分が一番下」というおもいがありました(笑)。

一座右の銘とその言葉に対するおもいをお聞かせください。

昔は自分に課する意味で、「今日できることは明日に延ばすな」と常に言い聞かせていたのですが、明日が永遠にあるような気がしてなかなか守れない(笑)。最近は変わってきて、「一期一会」とか「情けは人の為ならず」かな。業務上色々な方たちで人のサポートをする機会がありますが、その出会いを大事にし、仕事や自分の知識を通じて人に親切にすることによって、(見返りを期待する意味ではなく)悪いことは起きないだろうとおもっています。

最後に、25周年記念事業を直前会長の立場で経験されたOBから、30周年を迎える当会にエールをお願いします。

会員の意識の持ちよう如何では、会を駄目にしてしまうことは簡単なこと。時代ごとにテーマは変わっていくものですが、会員ひとりひとりの探究心やエネルギーによって「続けていく」ことが素晴らしいことであり、重要なことだとおもいます。形だけで続いてきたわけではなく、人の「和」でいって続けていくのがいいですね。中央会というのは大人(おせ)にしてもらうための会です。30周年おめでとうです。

後記

表情豊かにジェスチャーを交えて語られる姿が印象的な小原OBでした。筆者にとっては自身の現状と重なる部分もあり、ハンサムの記事以上に貴重な時間となりました。今回の訪問でまず驚いたのが、同氏の「阪神タイガース」コレクション。事務所入口に所狭しと並べられたグッズの数々は一見の価値ありです。取材後には二次会まで設定していただき、委員長と子ども大変ごちそうになりました。最後になりましたが、お忙しい中取材にご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。(広報: 尼子 健)

言わしてごしない 其の五

11月も半ばを過ぎ、寒さも日々きつくなってきました。忘年会シーズン到来。

さて、今回は「中小企業のサラリーマン達が日々どういうふうに取り組んでいるか」言わしてごしない。

社名というのはサラリーマンにとって命です。たとえば、業績が良い時や世間から良い会社だと言われているときには自社に対して胸を張れますが、不況にあえいでいるときや何らかのトラブルに巻き込まれているときは社名を名乗るのも非常に辛いものです(オーナーの方々も同様だとおもうけど...)。社名というのは、会社とそこに勤める人達の人生と重なっているとおもうのです。また、胸を張って社名が言えるということは、部下を成功させようとして経営者や上司が頑張ることとおもいます。部下達は絶えず自分がどの様な評価をされ、どの様に会社で生きるとかということを悩んでいるのです。だから、たとえ小さな成功でも成功体験を持った人が増える会社は強いとおもいます。ところが、失敗の経験しなかく、この先待っているのは失敗だけというようにおもった社員が多い会社は開いていくには非常に難しいとおもいます。経営者あるいは上司にとって大事なことは、「自分の部下にどんな成功体験を持たせることが出来るか」ということを意識しているかどうかで、そのことが会社の未来に大きくかかってくるとおもいます。

だからお願いがあります。「出る杭は打たないで下さい。」サラリーマンは40代・50代・60代、いくつになっても頑張ります。(経営: わがままサラリーマン英治くん)

テレビ放送のお知らせ

11月16日(日)に米子市民球場で行われた中央会野球部対ヴェーナスの試合が、来る12月11日(木)中海テレビ14chで12時から24時までエンドレスで放送されます。ぜひご覧ください。

メールアドレス変更・取得のお知らせ

【変更】 浜田一哉会長 hamakou7@ybb.ne.jp
【取得】 高田孝志会員 takata@daikai-tsusan.com

12月例会案内

と き: 平成15年12月15日(月) 18時30分 受け付け開始
19時00分 例会開始

ところ: ホテルサンルート米子

内容: 忘年例会

※今例会の趣旨を充分理解いただき、飲酒運転にはくれぐれもご注意ください。

コピーをして名簿にお貼り下さい

山本 徹 A型 代表
山本労務管理事務所
社会保険労務士業
〒684-0071 境港市外江町2979
TEL 47-0777 FAX 47-0778

H15.11入会 (推薦者) 多賀(彰) 釜田(公)
〈自宅〉境港市外江町2979
〒684-0071 S.39.7.6 TEL.47-0777

〈コメント〉この度、11月より入会させていただくことになりました山本徹と申します。境港市で社会保険労務士を開業しまして5年目になります。中央会の活動を通じて、いろいろな経験や知識を得たいとおもっています。委員会等に積極的に参加していこうとおもっていますので諸先輩方のご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

高橋 治朗 B型
三井生命保険(株)米子営業部 営業部長
生命保険業
〒683-0052 米子市博勢町4-358-6
TEL 34-2518 FAX 23-0484

H15.11入会 (推薦者) 花園(直) 橋田(昇)
〈自宅〉米子市皆生新田2-9-37-203
〒683-0002 S.44.1.29 TEL.32-0082

〈コメント〉11月より入会いたしました三井生命の高橋治朗と申します。今までは社内での付き合いが多く、社外での交流がほとんど無かったため、この度の入会を機に積極的に活動に参加し、今以上に自己の精進ならびに色々な方のご指導を仰ぎつつ、知識・見聞を広げていければとおもっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

岩垣 樹 O型
株式会社マネージメント米子(米子全日空ホテル)
チーフアシスタントマネージャー
ホテル業
〒683-0824 米子市久米町53-2
TEL 36-1111 FAX 36-1115

H15.11入会 (推薦者) 松本(哲) 高山(広)
〈自宅〉米子市西福原3-5-31プラランシェ本生105
〒683-0805 S.46.5.21 TEL.37-5290

〈コメント〉この度、入会させていただくことになりました岩垣樹と申します。米子全日空ホテルに勤務しております。いろいろな業種の方が集まるこの会に入会できたことは、この先自分の視野や知識の幅を広げる良い機会だとおもいます。なにぶん若輩者ですので至らない点はいくつかとおもいますので諸先輩方のご指導をいただければ幸いです。なにぞよろしくお願い申し上げます。

12月役員会報告

12月定例役員会が平成15年12月1日(月)、米子市観光センターにおいて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- (1) 12月忘年例会開催の件
- (2) その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

伝心伝承

支所長	主 査	合 議	区 分
自立	3本の柱	会の自立・人としての自立・地方の自立	2003(12) No.1912

Handsome

発行人: 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 浜田一哉 編集責任者 野嶋 功 印刷所 東京印刷機

11月例会報告



11月17日(月)、ホテルサンルート米子において経営委員会による11月度例会が開催された。

浜田会長の挨拶のあと、新入会員の山本・高橋・岩垣の3氏にバッジが授与された。

委員長タイムでは後藤広報委員長が、自身に起こった体験談より「時候の挨拶」にまつわる話を紹介し、「大人の会として今一度挨拶を徹底していきましょう。」と会のモラルの大切さを提言された。

今月は講師に日野病院院長の堀江裕(ほりえ・ゆたか)氏を招き、「あなたの健康・わたしの健康」という演題で講演が行われた。綾小路きみまろのような軽快な口調とリズムカルなテンポで講演は進んでいった。冒頭、「言葉はあめつち(天地)を動かすほど大事であるが、最近、言葉の力が無くなってきているように感じる。組織の一体化には共通の言葉が必要である。」と言われたが、中央会の「綱領」とダブって聞こえた。

氏は、病院長という立場から、組織の共通の目標を「坂の上の雲」と換言し、「消化器癌の早期発見と治療」をそれに置いておられる。(ちなみに講師先生自身の「坂の上の雲」は「返事とお礼を最優先」。私も見習わなければ...)。そして、人生は些細な事より成るので平凡な事を徹底する「凡事徹底」を人生訓とし、院内の清掃を徹底されている。

医者としての側面からは、病名・病状や経過説明が患者さんに正しく理解されているか不安を感じるため、「急性肝炎~肝臓癌」を東海道新幹線の「東京~博多」間の駅名で説明するなど「たとえ」や「比喩」を使って説明するそうである。

講演のクライマックスは映画「笛吹童子」に始まり北島三郎の「函館の人」まで全6曲の「堀江裕オンステージ」。講師先生は素敵な言葉を持ったエンターテイナーであった。

※残念ながら講演内容の大部分が紙面では紹介しきれないため、先ごろ出版された著書「診察室へお入り下さい~病は言葉で治療する~」を是非お読みください。講演で紹介されなかった素敵な言葉にも出会えます。

(広報: 福庭貴志)



OB交流会開催される

OB交流会に初めて参加させていただきました。まずびっくりしたのが会場の設備。次に野外での宴でありながらその豪華な料理の数々。この交流会の重要性を感じました。OBの方々とお酒を飲みながら、中央会での体験談や仕事のこと、人生論など様々な話をして色々と勉強になりました。

また、新入会員がビキニパンツを履いてウォーターボーイズのアトラクションをしたことは、新入会員がひとつにまとまる絶好の機会となりました。いい大人が11名、パンツ一丁で円陣を組んで気合を入れたことは今でも忘れません。周りから見たら単なる危ない集団だったとおもいますが... (笑)。

人前で、しかも野外でパンツ一丁になることにはかなり抵抗があったとおもいますが、本番で開き直れたことはさすが(?)中央会のメンバーだと感じました。アトラクション終了後、「最高だった。良かったよ。」とか「中央会はいつもこんなことをする会じゃあないからね。」とかいろいろフォローの言葉をちょうだいし、すぐ救われました。この交流会に参加し、ますます中央会が好きになりました。これからも頑張っていこうとおもいます。

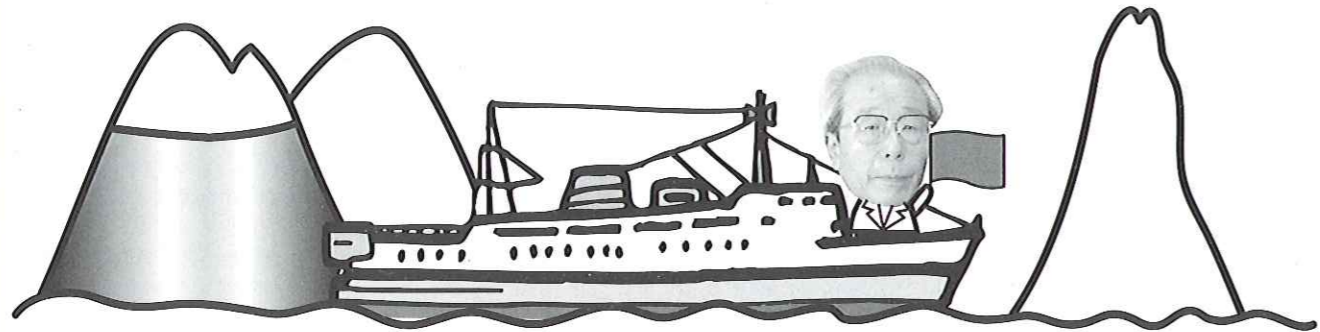


最後に、OBの方々に喜んでもらい今回のOB交流会が大成功に終わったことがなによりです。

(国際交流: 河津慎二)

未来
 Humane Do everything that is humanly possible
 2013.12 No.301
Hands & Time

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 一休謙太郎 編集責任者 平成15年度広報委員会 印刷所 東京印刷機



「大交流時代到来の予感」

10年後の西部圏域の観光について考えてみた。
 なぜ観光かという、観光は総合産業といわれ、経済波及効果の高い産業であるからであり、また、21世紀の基幹産業になるともいわれているからである。
 さて、2013年頃には、国際観光による大交流時代が到来することを期待している。すなわち、北東アジア地域国際観光圏が構築され、鳥取県の西部圏域においても観光交流がさかんになり、大交流時代がやってくればと願っている。北東アジアと言えば、「日本、韓国、北朝鮮、中国、モンゴルそしてロシア」の極東地方を含む5つの国と1地域である。
 では、なぜ北東アジア地域国際観光圏かという、鳥取県は日本海側に位置しており、これらの国とも近い。そのため、県においては環日本海地域知事庁会議、米子市と境港市においては環日本海拠点都市会議を毎年開催し交流を深めており、これらの会議の確認事項において観光交流を促進することを申し合せているからである。
 そこで、これらの地域を結ぶ海上周遊コースが開発されればとおもっている。具体的には、日本の「境港・新潟港・秋田港」、韓国の「東草港（東海港）」、ロシアの「ザルビノ港（ポシェット港）」を結ぶ定期航路ができれば一大国際観光圏が形成される。
 また、鳥取県には「大山」、韓国江原道には「雪嶺山」、中国吉林省には「長白山」というすばらしい山がある。この山をめぐる山めぐりツアーも考えられる。そして、大山を訪れた観光客に鳥取県の観光地をめぐってもらえば観光振興になり、ひいては西部圏域の活性化に寄与するとおもわれる。
 10年後にはこのような国際観光による大交流時代がくることを願っている。

(境港市：竹本智海)

全国大会に参加して

去る平成15年10月30日（木）、東京・渋谷公会堂において開催された「第55回中小企業団体全国大会」に参加しました。全国大会当日は会場前で記念撮影をし、開会時刻を待ちました。会場に入場できるのは西部からは僅か5名でしたが、市位県会長・浜田会長・湯原県出向・多賀委員長長の4氏に私も加えてもらえました。パスポート参加証持参で入場証を胸に付け、緊張のおもいで入場しました。

今年の全国大会はキャッチフレーズに「たゆまぬ挑戦／新たな飛躍」を掲げ、「中小企業の相互の力を結集して団結を深め、未来に向かって翔いていくことを決意し、振興発展のために積極果敢に対応していくこと」を迫るものでした。それに基づいた議案上程の後に意見交換がなされ、全てが採決されるといよいよ来賓祝辞です。小泉内閣総理大臣ならびに中川経済産業大臣の登場の際にはひととき大きな拍手が起きました。小泉総理は「『構造改革なくして日本の再生と発展はない』という信念のもと、やる気と能力のある中小企業が企業と協力しながら、自らの潜在能力をいかに発揮し、厳しい経済状況を克服することができるような中小企業政策を推進していく。」と述べられました。最後になりますが、7月に入会したばかりの私にとって今回の事業への参加は有意義な時を過ごせたのと同時に、素晴らしい経験のひとつになったと感じています。

(総務：中村臣成)



11月度各委員会報告書

情報メディア委員会
 平成15年11月14日(金) 於：米子食品会館 出席者/10名
 内容/外部講師講演
 講師：小林慎一OB (有限会社山陰テント専務取締役)
 演題：個々の進化と深化、アナログ人の選択 一戸窓うIT化—
 講演は「情報メディア委員会のルーツと目的」「トライアスロンボランティア部での活用」「山陰テントでの活用」という柱で行われた。その中で「いくらパソコンや電子手帳に予定を入れても、入れたことを覚えていなければデジタルの活用の意味は無くなってしまふ。」とされ、「たとえIT機器を使ってもアナログ的に覚え、その情報をデジタルで確認する」といったアナログとデジタルの併用を勧められた。最後に「ミッション(計画)→アクション(行動)→パッション(情熱)」の順で考えていけば良い結果がうまれる、と講演を締めくくられた。

政治行政委員会
 平成15年11月11日(火) 於：ホールサムインかいけ 出席者/13名
 内容/外部講師講演
 講師：米子市役所環境政策課 谷上課長、福留主事
 演題：米子市の環境政策について
 「米子市は、豊富な水辺や大山山麓の緑が織りなす雄大な景観など大変豊かな自然環境に恵まれている。この貴重な自然を保全し、都市景観との調和を図るための行政の取り組みとして代表的なものに「スラブ(可燃ゴミの灰を再度燃やしたもの)のリサイクル方法」「不法投棄問題」「旧加茂川の水質改善方法」「市・市民・事業者連携で環境保全に取り組むための指針=米子市環境基本条例制定」がある。」等具体的な政策について講演いただいた。
 会員からは「スラブを利用したい場合の入手経路は?」「水質改善に伴う河川の稀少動植物に対する配慮は?」等々の質疑があり、さらに具体的な説明が付加され、閉会時刻を忘れてしまうほど白熱した委員会であった。

国際交流委員会
 平成15年11月6日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/11名
 内容/バンコク事前調査隊 視察 調査報告等
 先遣隊が写して帰ったビデオ映像を鑑賞した。「受注した建物をコンテナに入るほどのブロックごとに設計・施工し、気配線・上下水道配管・内外装を施し、そのまま顧客の待つ現地まで輸送、現地で予め教育を受けた業者がボルト締めで組み立てていくだけ」という商品を持っている企業の紹介が印象に残った。完成度が非常に高いのに簡単に移設でき、設置場所での人件費が安価で済む点等々のセールスポイントが多く、幅広い分野で展開できることに感嘆の声があがっていた。

経営委員会
 平成15年11月7日(金) 於：米子食品会館 出席者/12名
 内容/11月担当例会打ち合わせ等
 ①当日の役割担当の最終確認、②一般ならびにOB会員への声掛け、③講師講演延長時の対応、等々11月担当例会の最終確認を行った。

地域ビジョン委員会
 平成15年11月6日(木) 於：米子食品会館 出席者/9名
 内容/「地域を知る」
 「地域を知る」というテーマで発表が行われた。まず、堀田委員から境港市の有するハード&ソフトの特徴について「『港湾』は4万トンバースに加え5万トンバースも完成。コンテナクレーンも新設になり処理能力はアップした。『観光』は水木ロードや水産祭り・航空祭・みなと祭りにビーチバレーなど集客力の高いイベントがある。特に、3月にオープンした水木記念館は17万人(月平均21,700人)の入場者であった。その他にもすばらしい設備があるが活かしきれていない。」との発表があった。
 次に、濱会員から「境港市の港湾・貿易の設備や可能性を活かすためにも米子市との合併が必要で、合併により20万人都市になれば境港の能力をもっと伸ばすことができる。」との発表があった。

広報委員会
 平成15年11月7日(金) 於：大連 出席者/9名
 内容/ハンサム12月号編集
 委員会ディスカッション「人権尊重スローガンに潜む屁理屈」
 長崎児童誘拐殺害事件をテーマに、鴻池元防災担当大臣の「少年犯罪の罰則は強化しなくてはならない。(罪を犯した少年の)親は市中引き回しの上、打ち首にすればいい。」という発言を中心に討議した。
 核心について深く追求することはなかったが、各委員の発言の中には確固たるキーワードがあり、それぞれの意見をぶつけ合うことが出来たのではないだろうか。さらに、「IT社会の歪み」「裁判の矛盾」「死刑制度の是非」「子育て」など、幅広く現代社会が抱える問題点について、各委員が鋭いメスを入れた。
 これらの問題は身近に存在するがゆえに、絶えず考えていかねなければならないことを各委員が再認識した。

総務委員会
 平成15年11月5日(水) 於：ホテルサンルート米子 出席者/13名
 内容/OB交流会の反省等
 OB交流会の反省として「役員の方々が率先して働いている姿を新入会員をはじめ他の会員も見習って欲しい。」「お手伝いなどでOB交流会の本当の趣旨である交流面が出来ていなかったとおもう。名刺交換くらいは出来るよう気遣いを。」「食材が多くあってもったいない気がした。」等あった。

30周年記念事業委員会
 平成15年11月6日(木) 於：米子食品会館 出席者/7名
 内容/30周年記念事業スケジュール作成等
 周年事業までのスケジュール作りが行われ、周年事業式典の日程(案)が決まった。この日から逆算してポスターやパンフレットの作成等宣伝活動に関する様々な意見が出された。
 講演依頼予定の講師へのアポイント状況の報告が担当委員から行われたり、30周年実行委員会の組織構成についても話し合われたり、いよいよその骨格が形作られてきた。11月27日に引き続き委員会が開かれることが決まった。

中央会的正しい(?)日本語の使い方教室～「職権乱用」編～

現役会員のみならずOB会員、はたまたその家族にまで愛読者を持つハンサムですが、今コーナーでは小難しい用語を取り上げ、「本来の意味」と「中央会での意味」について解説し、例会や委員会または職場や家庭での会話(詰問?)を創出することを目的としています。1回目の今回は「職権乱用」です。

【本来の意味】
 公務員が法令の規定を越えて職務上持っている権限をみだりに使うこと。
【中央会での意味】
 例えば、広報委員長が同じ委員会の転勤となったメンバーの最後の原稿を大きく取り上げたりすること。この場合、確信的要素が強い傾向にある。
 (注：良い子のみんなはマネしないでね！)

それでは、今月の具体例を見てみましょう。

吾輩はいわゆる転勤族である

青年中央会には多くの方々がいらっしゃいますが、ご自分で会社を経営しておられる方々や我々サラリーマンとの大きな違いは「転勤」という命を受けることでしょうか。やっこの環境にも慣れたかなあ、とおもう頃には次の転勤の時期が来るのです。変化への対応が遅い私にとってはどちらかという少し憂鬱なイメージを持たざるを得ません。
 転勤の客観的事実として、「仕事が変わる・気分が変わる・上司が変わる」ということが挙げられますが、それが良かったのか悪かったのかは別として、これを経験できるのもまさしく転勤族ならではのことでしょう。ある意味、「やり直しがきく」ともいえますが、せっかく積み重ねてきたものを崩さぬ努力も大事だとも思います。
 何はともあれ、「これも修行！」と会社からの命令に従い続ける少し悲しいサラリーマンといったところでしょうか・・・。(松)

11月19日付けで鳥取銀行鳥取本店への栄転が決まった松本政彦会員です。2年4ヶ月の中央会活動でしたが、近い将来、また活動をとにもする日が来ることを願っています。着任前日の26日に肩組んで歌った「贈る言葉」を送別会参加者はきっと忘れない。頑張れ～、松本お～!!!